

研究課題名	鶏卵アレルギー小児の長期的観察による食物アレルギー寛容誘導機序の解明
フリガナ	タナカ タカユキ
代表者名	田中 孝之
所属機関(機関名) (役職名)	京都大学大学院医学研究科 客員研究員
本助成金による発表 論文, 学会発表	今年度は、なし

研究結果要約

わが国の即時型食物アレルギーの原因食物として最も頻度が高いのは鶏卵であり、特異的 IgE 抗体測定や食物経口負荷試験を用いた通常の診療で耐性獲得に至る患者も多いが、IgE 低値でも症状誘発が見られる症例や耐性獲得が進まない症例など、問題も残っている。今回我々は鶏卵アレルギー患者をリクルートしてコホートを作成し、経口食物負荷試験と同時に免疫学的な解析を行うことにより、実臨床の中で 1：鶏卵への耐性獲得例・そうでない例の免疫学的な違いを明らかにし、2：鶏卵除去指導の指標として食物負荷試験の補助となるバイオマーカーを同定することを目的に研究を進めている。

2021年2月より症例のリクルートを開始し、2022年3月末時点までに80症例を目標としていたが、実際には130症例が参加した。内訳は、鶏卵アレルギーのない0群が10例、卵白10g以上を摂取可能なI群が27例、卵白は未摂取だが、アナフィラキシー既往のないII群が53例、少量卵白でアナフィラキシー既往のあるIII群が15例だった。初回の検体提供時にPBMCを凍結保存しており、これらの解析を通じて次年度以降、

- 1, 食物負荷試験結果と相関するバイオマーカーの探索
 - 2, 低リスク群と高リスク群患者の間で有意に差のある指標の同定
 - 3, 上記の指標が耐性獲得の中でどのように変化するかを追跡
- の3点の解明を引き続き進めていく。